

# 1000年続いた 東のローマ帝国



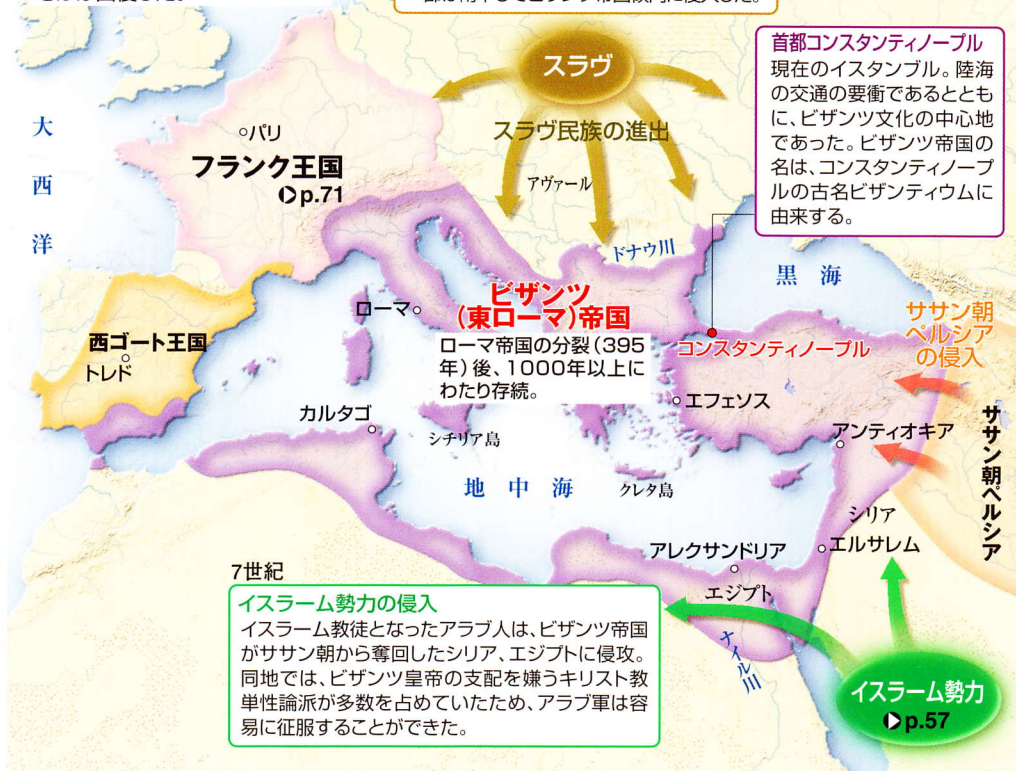
1000年以上にわたって続いた  
ビザンツ帝国の下、ギリシア正教や  
ビザンツ文化を基礎とする  
東ヨーロッパ世界が形成された。

## 全盛期のビザンツ帝国(6世紀)

ビザンツ帝国は、6世紀のユスティニアヌス帝の時代に最盛期を迎え、旧ローマ帝国時代の領土をほぼ回復した。

**スラヴ民族**  
ゲルマン民族の移動に連動する形で、原住地のカルパティア山脈北方から移動を開始。一部は南下してビザンツ帝国領内に侵入した。

**首都コンスタンティノープル**  
現在のイスタンブール。陸海の交通の要衝であるとともに、ビザンツ文化の中心地であった。ビザンツ帝国の名は、コンスタンティノープルの古名ビザンティウムに由来する。



**7世紀**  
**イスラム勢力の侵入**  
イスラム教徒となったアラブ人は、ビザンツ帝国がササン朝から奪回したシリア、エジプトに侵攻。同地では、ビザンツ皇帝の支配を嫌うキリスト教単性論派が多数を占めていたため、アラブ軍は容易に征服することができた。

### ビザンツ帝国の盛衰と ビザンツ文化

西ローマ帝国が滅亡したあとも、東ローマ帝国はビザンツ帝国とよばれ、約1000年にわたって存続した。

6世紀のユスティニアヌス帝の時代には東ゴート王国やヴァンダル王国を滅ぼすなど、旧ローマ帝国(P30参照)の領土をほぼ回復。また、ローマ法を集大成した『ローマ法大全』もこの時期に編纂されている。しかし、その死後はスラヴ民族などに侵入され、さらに7世紀からはササン朝ペルシアやイスラム勢力(P57参照)などに侵入されて、帝国は次第に衰えていった。

これに対し、7世紀前半に即位したヘラクレイオス1世は、地方の体制を整えるテマ(軍管区)制や、軍役と引き換えに兵士に土地を与える屯田兵制を採用。8世紀前半に入り、レオン3世の治下で帝国は体制の立て直しに成功し、再び繁栄の時代を迎えた。また、このころには皇帝が教会を支配する**皇帝教皇主義**をとり、726年にはイスラム教への対抗から**聖像崇拜禁止令**を發布した。聖像による布教に努めていたローマ教会はこれに反対し、カールの戴冠(P71参照)などをへて、キリスト教はローマカトリックとギリシア正教に分裂。以後ビザンツ帝国は、ギリシア正教を中心に、ヘレニズム・ローマ

文化、さらには西アジアの要素を融合したビザンツ文化を生み出してゆく。その後のビザンツ帝国は、11世紀ごろから台頭した大土地所有貴族により、しだいに皇帝権が弱体化。13世紀初頭の第4回十字軍では首都コンスタンティノープルを一時占領された。それ以後、国力が回復することはなく、1453年、オスマン帝国(P61参照)の攻撃によりコンスタンティノープルが陥落し、1000年以上にわたって続いた帝国は滅亡した。

### ギリシア正教 (東方正教)とは

ここでいうギリシア正教とは、ビザンツ帝国公認のキリスト教とそれを起源とする諸教会の総称で、現在では東方正教ともよばれている。ビザンツ帝国においてビザンツ文化を生み出す母体となったが、ローマカトリックとは対立関係にあり、1054年に両者は完全に袂を分かっている。カトリックよりも原始キリスト教に近いといわれ、救いや愛を重んじ、世俗権力との関係では聖俗一致の傾向が強い。

### ギリシア(東方)正教とローマカトリックの比較

	正教	カトリック
人口(2002年)	約2.2億人	約10.8億人
最も重要な祝祭日	イースター(復活祭)	クリスマス
司祭	妻帯者も可	独身者
十字を切る順番	額→胸→右肩→左肩	額→胸→左肩→右肩
政治との関わり	聖俗一致の傾向	聖俗分離
組織	主教や司祭に個人的権威はない	教皇を頂点とするヒエラルキー